

R O S É



文化情報誌 ロゼ
ROSÉ THEATRE
ART INFORMATION OF FUJI CITY
CULTURE MAGAZINE ROSÉ

VOL. 31 2000



富士市文化情報誌 ロゼ 2000年4月発行(第31号)
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416-0931 富士市蓼原1307番地の8 TEL(0545)60-2510
企画・編集・製作 (財)富士市文化振興財団事業課広報係 アドスペース エーピック株式会社



AKIKO SUWANAI

平成12年5月24日(水) ロゼシアター・大ホール
開場18:30 開演19:00
入場料 S席 9,000円 A席 7,000円 B席 5,000円(学生 2,500円)
PROGRAM・ブラームス:ハイドンの主題による変奏曲 作品56
　　バルトーク:ヴァイオリン協奏曲 第1番 ※
　　サラサーテ:ツィゴイネルワイゼン ※
　　ブラームス:交響曲第1番 ハ短調 作品68
(※は誠訪内晶子の出演目)

PROFILE

内晶子

東京生まれ。1990年最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。1991年からニューヨークへ留学し、日本での演奏活動を休止。その後、小澤征爾指揮ボストン交響楽団定期演奏会及びカーネギーホール演奏会、セミヨン・ビショウ指揮パリ管弦楽団定期演奏会、ニューヨーク・フィル定期演奏会、などに出演

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コース卒業。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロニア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学においても学んだ。

年紀
祝祭の餐宴に陶酔

ブダペスト祝祭管弦楽団

アイオリン

取訪内 晶子

ゼシアター開館7周年記念事業の前半を飾る「ブダペス
祝祭管弦楽団」公演。ロゼの千年紀に華を添えるソリスト
訪内晶子さんの近況をうかがいました。

ブダペスト祝祭管は、サウンド、ハーモニー、リズムなど独特といわれていますが、今まで共演されたオーケストラと違いはやはり“熱い”というか…。なんといつても熱いのですが、その熱さが内に秘めているというのとも違うし、かといって表にすごく出ているという表現ともまた違うし…。でも熱くなつたら絶対さめない。最後まで熱いのです。

フィツシャーさんの指揮ぶりは
ハンガリーの人って、うねりを楽しむのです。うねればうねるほど応えてくれるのです。もしうねりといいうのがあるとしたら、私はハンガリー人ではないので、うねりかたがちょっと違うのですけれど、それが面白かったです。

また、フィツシャーさんは本当に音

これから活動状況
ベルリン芸術週間の一環で、ベルリン・
フィルとの演奏会が今年の九月十二日
十三日あります。リサイタルも予定
されています。

最近とても面白いと思うのは、ヨーロ
ッパに生活の基盤を作ると、ヨーロ
ッパでの仕事が増えるということです
フィッシュヤーさんともそうですねこれど
今まで思い描いていたイメージだけで
はなく、実際に接して仕事をして、それ
がまた広がりを持つて行くのが素敵で

点を作つていきたいと思つています。
それからデュトワさん、メータさん
との共演や、ルツエルンの音楽祭に出
演する予定です。また、今後はヨーロッ
パのオーケストラと共に演をしていきた
いです。例えばパリからブダペストへ
も二時間以内で行けるのに、全く違う
言語を使うし、音も違うし、それは私に
とつて興味深いことです。そしてどんどん柔軟に対応できるようにしていき
たいと思つています。

A wide-angle photograph of a grand concert hall. In the foreground, a large orchestra is performing on stage, with musicians in dark uniforms playing various instruments. Behind them stands a massive, ornate pipe organ with numerous pipes and gold-colored decorative elements. The hall's interior features dark wood paneling and large, ornate chandeliers hanging from the ceiling. The lighting is focused on the stage, creating a dramatic effect against the darker auditorium.

ブダペスト祝祭管弦楽団の印象について
現代は国民性を失つてしまつたオーケストラが多い中において、ハンガリーワークの持つ民族性や歴史などの特性が生きているという点で、とてもめずらしく貴重な存在だと思います。実力は飛びぬけており、本当に素晴らしいと思いました。

特に素晴らしいのは、リハーサルの前に毎回必ずバツハのカンタータや教会音楽を木管セクションだけで演奏するのです。それによつて弦楽器との音程をあわせたり…まさしくこれはリハ

しいです。今年の二月にフランス国立管弦で一緒に緒したチヨン・ミュンファンさんもそうですが、時間にとらわれずに、できるだけ良い音楽を作ろうという姿勢があります。なかなかそういう姿勢に接することはできません。

そしてフィツシャーさんとの音楽作りでとても印象的だったのは、「いろんなヴァイオルトゥオーゾはいるが、いかにも細かいニュアンスをつけていくことができるかが非常に大切なこと」と言われていたことです。

音楽監督：指揮 イヴァン・フィツシャー



ザ・ファーテルフイア・ プラス・アンサンブル ジョイント プログラム

ザ・ファーテルフュア・
プラス・アンサンブル

「アーヴィング・ブルク協奏曲」

ロイヤルチエンバーオーケストラ
指揮 堤俊作
「フランシスブルク協奏曲」



キヴィルトウォーゾの共演
100 MAYコンサート 5月28日(日)

・フィラデルフィア・プラス・サンサンブル 6月9日(金)

・フィルメンバー エキストラ出演
「グランデンブルク協奏曲」
イヤルチェンバーオーケストラ 7月8日(土)

トロゼシアター合唱団 新たな挑戦
一ツアルト「レクイエム」 10月15日(日)

「ザ・フィラデルフィア・プラス・アンサンブル」は、二〇〇〇年に創立一〇〇年を迎えた、緻密で繊細なアンサンブルで『フィラデルフィア・サウンド』と絶賛されている、アメリカを代表するメジャーオーケストラ「フィラデルフィア管弦楽団」からの選りすぐりのソロ演奏者によって一九五九年に結成された金管アンサンブルです。

今回の見どころは、演奏曲目がすべてアメリカの作曲家による曲を集めたプログラムで、プラス・ア・メリカという気分が十分満喫できます。さらに富士市内で活躍しているアマチュアグループ富士フィルハーモニー管弦楽団を中心とした、メンバーとの共演プログラムが楽しみです。

トランペット／陣野原聰、鈴木善博、根岸利光、渡辺真規子、ホルン／梶原久仁子、杉山和也、友岡裕二、トロンボーン／稻

A photograph showing a group of musicians in a rehearsal room. There are seven people visible, all wearing light-colored shirts and dark trousers. They are seated around a wooden floor, each playing a brass instrument like a trumpet or tuba. Music stands with sheet music are positioned in front of them. The room has green walls and a large double door in the background.

21世紀事業は市民と ヨゼの共同公演

九年八年の「市民創作ミュージカル」九年九年の「市民合唱—第九の集」等にて数年ロゼシアターの自主事業は市民と一体となった公演創りを展開してきました。

若きザヴィルトウオージの共演

毎年青葉の季節、恒例となった「MAYコンサート」は今年も

モーヴィアルト
「レクイエム」

- ・小野岡祐子さんは現在、スズキメソード指導者、沼津楽友協会評議委員、富士フィルハーモニー管弦楽団のコンサート



・イリー・タルさん
コリト



杉山佳代さん
チキンバロ



小野岡祐子さん
ヴァイオリン

合唱「第九の集い」のオーケストラをま
とめ、「バロック古楽器展」ミュージアム
コンサートでも出演してきました。

・ 杉山佳代さんは富士市出身で沼津西高等学校時代からエンバロをはじめ、東京芸大、同大学院を卒業後現在はコンセルトゼフィンエンバロ奏者として富士・沼津を中心に演奏活動をおこなっています。「バロック古楽器展」ミニュージアムコンサートでも素晴らしい演奏を披露していただきました。

若き才人トウホーヴの共演 1000 MAY CONCERT

毎年青葉の季節、恒例となつた「MAYコンサート」は今も
フレッシュな新人十名を迎えてのステージとなります。

● 大石薰さん(21)／武藏野音楽大学ピアノ科卒業。教会オルガニストとして知られるフランの前奏曲アリアと経由終曲を演奏していただきます。

● 小野隆洋さん(20)／ロンボーン東京音楽大学を卒業。現在各演奏会で活躍、注目される小野さんは「バルツの」「ナード」「ロンボーン」とピアノの為の小品変ホ短調」を演奏していただきます。

卷之三



【「ふじの芸術家たち 工芸・洋画二人展」】
●「吉澤実 バッハとリコーダー」
●「わらび座公演 菜の花の沖」
●「平成11年度 静岡県芸術祭 優秀作品展」

【「吉澤実 バッハとリコーダー」】
●「わらび座公演 菜の花の沖」
●「平成11年度 静岡県芸術祭 優秀作品展」

【「ふじの芸術家たち 工芸・洋画二人展」】
●「吉澤実 バッハとリコーダー」
●「わらび座公演 菜の花の沖」
●「平成11年度 静岡県芸術祭 優秀作品展」



【「スペイン国立バレエ団「ボレロ」】
●「吉澤実 バッハとリコーダー」
●「わらび座公演 菜の花の沖」
●「平成11年度 静岡県芸術祭 優秀作品展」

【「ロイヤル・オーケストラ」】
●「吉澤実 バッハとリコーダー」
●「わらび座公演 菜の花の沖」
●「平成11年度 静岡県芸術祭 優秀作品展」

【「チック・コリア & オリジン」】
●「吉澤実 バッハとリコーダー」
●「わらび座公演 菜の花の沖」
●「平成11年度 静岡県芸術祭 優秀作品展」

【「文楽の世界 入門 I」】
●「吉澤実 バッハとリコーダー」
●「わらび座公演 菜の花の沖」
●「平成11年度 静岡県芸術祭 優秀作品展」

【「チック・コリア & オリジン」】
●「吉澤実 バッハとリコーダー」
●「わらび座公演 菜の花の沖」
●「平成11年度 静岡県芸術祭 優秀作品展」

【「文楽の世界 入門 I」】
●「吉澤実 バッハとリコーダー」
●「わらび座公演 菜の花の沖」
●「平成11年度 静岡県芸術祭 優秀作品展」

1999・SEPTEMBER.~2000・FEBRUARY. 平成11年度後期自主事業(9月～3月まで)を、それぞれの催物に寄せられたアンケートをもとにフラッシュバックしてみました。WAKUWAKU通りや本誌で扱った公演は割愛してあります。
※サインは出演者からいただいたものです。



ROSÉ HOT REPORT

がスコットランドの大学なのです。そしてそれらの大学が、それぞれの校内に教会を持つていて、必ずパイプオルガンがあり、今も演奏され続けています。その中で最も有名なのはクライスト・チャーチといつて十二世紀に建てられたオックスフォードで一番古い英國々

は見事な絵が描かれていて、足が床に
とどかない位椅子が高く堅い事を除
けば、それは素晴らしいホールなのです。
聖歌隊は子供と大人の男性のみで構
成されており、子供達の声の透明さは
思わず「うーん」と唸ってしまう程美
しく、ハーモニーも素晴らしいもので
ホーリームといふ所は、やや小さく客席は
約三百席、ここでは殆どの日曜日、朝
十一時三十分から約一時間、コーヒー
コンサートというのを開催しています
ホールの中にはお茶を飲むスペース

私が今までに行つたどの演奏会も、司会者や指揮者、演奏家による曲目解説や、作曲者についての話などがありとてもアットホームなもので、時には質問が飛び出す事もありました。こんな演奏会が日本でも多くなると、もつとクラシックが身近になるのではないでしょうか。

そうそう、コンサートの案内は勿論日本のようにチラシとか、年間案内で出ていますが、それとは別に街中至る所に看板が立ててあり、買い物に出た時その日のコンサートを知り、突然聴き

といふ事なので、
日本の音楽教育もこうなるといいで
すね。



オツクスフォードの風 —英國音楽ごよつ—

茅原初子



リスト チャーチ



シリドーアン・シアター

音楽を心から楽しむ人々
私が今までに行つたどの演奏会も、司会者や指揮者、演奏家による曲目解説や、作曲者についての話などがあり、とてもアットホームなもので、時には質問が飛び出す事もありました。こんな演奏会が日本でも多くなると、もうつとクラシックが身近になるのではな

音楽を心から楽しむ人々

いる
といふ事なのです。

音楽教育に関しては、小学校から選択授業で楽器演奏が学べる様になつていて、小さな子供達が、ヴァイオリンやフルートをもつて学校へ出かけたりと、ます。学校には各専門の講師が指導に来ているのです。

さて、私の住んでいる町はヘディントンといつてオックスフォードの市中を少し出たロンドンよりにあり、音楽よりもフットボール場の方が有名なのですが、ここでは毎年一回ミュージック・フェスティバルが開かれていて、アマチュアからセミプロ、ソロ歌手からアンサンブルまで、誰でも一スケージいくらという規定料金を払えば舞台で演奏できるというものです。

ヘルですね
私もロゼシアターにおおいに期待して
います。

のですから、今後いかに活用するかが
財団の使命ですね。

PROFILE
大町 陽一郎 Youichirou Ohmachi
1931年生まれ。東京芸術大作曲科在学中に渡辺雄、クリト・ヴェスに指揮法を学ぶ。卒業後、カール・バーム、ヘルベルト・フォン・カラヤン、フランコ・フェラーラに師事し、60年に日本フィルを指揮して帰国演奏会を開き成功をおさめた後、61年より10年間、東京フィルの常任指揮者としてその黄金時代を築く。指揮した主なオーケストラはベルリン・フィル、ウィーン交響楽団、ハンブルク放送交響楽団等、また、オペラ指揮者としてもベルリン国立歌劇場、プラハ・スマタナ国立歌劇場等に客演するなど、シンフォニーとオペラの両方で活躍し、またその活動は日本とヨーロッパ、中国の文化交流に多大な功績を残す国際的指揮者である。現在東京芸術大学名譽教授。

東京フィルの響きは
オゼシアターにぴったり

指揮者

大町 陽一郎

「東京フィルハーモニー交響楽団／指揮：大町陽一郎」公演は今年で2回目、昨年の公演でロゼシアターの大ホールの音響に絶賛された大町氏にホールの音響効果等について4月8日の演奏会当日、お話を伺いました。



